

# 花まるだより

2025  
102

Hanamaru  
Monthly  
Newsletter





2025年2月

自由研究

先日、某大手出版社の「小学生の夏  
自由研究（正確には子どもたちが作る図鑑・自由研究・自分ノート）」の最終選考会で審査員を務めました。昨年が続いて2回目なのですが、応募総数も数千件と一年で14倍に増加し、内容の充実ぶりたるや驚くものでした。昔の自由研究といえば、「いろいろな形のどんぐりを集める」というようなのかなものが主流だったと思いますが、テーマも実に広くバラエティに富んでいて「宝石」「既存の図鑑にない古代鮫」「地下鉄」「沖縄」「マンホール」「心臓」「学校のひみつ（教師の仕事の現実）」「千羽鶴」「山の空気」「スイカの種」「剣道」「PTA」「霜柱」「おかしなせん」「車いす」などなど、本当に多様でしかも一つひとつが小学生離れした深掘りぶりで、感動しました。思うに「博士ちゃん」というテレビ番組がおもしろく親子一緒に楽しめる内容で評価も高いのですが、その人気が影響で一つのことを大好きで探求することの価値が子どもたちに浸透しているのかなと推察しました。

一方で、昨年私の教えた子からも考えさせられる事例がありました。一人は中一のKくん。2023年の「高濱先生と行く修学旅行」に参加した子で、その時点で全国のロボコンで優勝した男として一目置かれていたのですが、中学生になった昨年は審査員の側になったので動画を観てほしいという連絡が来たのです。サマースクールに来たときのことはよく覚えていて、「目が突き抜けているな」と感じたら、ロボコン優勝者との情報。なるほど技術の戦いで全国制覇するほどになると、こんな目になるんだなと思っただけです。そして審査員としての姿勢からは、背も伸びたくまさを増し、自信をつけて大好きなプログラミングと工学をさらに追究していることが伝わってきました。

もう一人は開成中二年生のAくん。スイーパー算数で教えた一人ですが、学園祭用に映画を作ったから観に来てほしいと言った。映像制作が好きだという噂は聞いていました。だが、私は講演会があり行けません。すると動画を送ってくれました。それを観てビックリ。出演者（同級生）の演技のかわいらしい緩さこそあれ、カメラワークは中学生離れしているし、展開のおもしろさやテンポ・間など実に素晴らしい。上質なミュージックビデオを観ている感じで、プロとしてすぐに仕事ができるのではという水準だったのです。驚いたのは上手につけたなと感じた音楽についてで、誰の作品なのかと聞いたら、なんと「Aで作りまし」とサラリと答える。新しい時代なんだなと感じました。

冒頭の自由研究もそうですが、これらの事例に共通するのは、自分が心から好きなことや関心を持ったことについて、ひたすらに探求し研究することが、喜びや自信となつてその子ども時代や青春時代を輝かせるといふことです。そしてそれは将来に向かつて心と頭を育てる大きな力となり人生の支えとなるでしょう。

目先の利益にとらわれず一つのことを追究することは、もともと芸術家やアカデミックの研究者たちが実践してきた生き方ですが、YouTube時代、つまり個人々が放送局として各々発信できるいま、新しい光を放っていると思います。たとえば歴史を愛しすぎた深井龍之介さんたちが北九州から発信している「コテナラジオ」がそうですね、山や自然が好きすぎる春山慶彦さんが福岡市で創作した独自のアプリ「YAMAP」もそうです。どちらも本当におもしろく興味深い知的喜びを提供してくれます。大都会にあるテレビ局が情報発信を牛耳っていた時代は終了し国民放送局状態のい

新刊情報

『小学生の全教科の成績がアップ！  
国語の力は親で決まる』

高濱 正伸 著  
(カンゼン)

小学生の全学力をアップさせるためには、どんな教科よりもまずは国語！そして、「親の言葉と接し方」が何よりも重要です。本書には、親子ともに国語力を伸ばすにはどうすればいいの、具体的な指導方法や言葉かけの仕方がたくさん書かれています。肩力を入れすぎず、大らかな気持ちで取り組んでみてください。

- こんな場合におすすめです／  
・「ヤバイ」「エグイ」ばかり言う  
・相手に気持ちを伝えられない  
・文章を理解できない  
・学校の成績が伸び悩んでいる



『小島よしおの  
ボクといっしょに考えよう』

小島よしお 著  
(朝日新聞出版)



本書は、小学生のお悩み相談に答える本。今や教育ユーザーとしてもブレイクしている著者だが、芸人の経験も生きているのか説得力ある回答が並ぶ。まず共感から入り、私もこういうことがあったよと失敗や挫折経験をさらけ出す。そして正解は一つではないことを踏まえた上でアドバイスを示すにとどめ「君はどう思うかな」で締める。こまやかで行き届いた回答ぶりは、すこぶる参考になるだろう。

高濱の本棚



ま、住む場所にはまったく関係なく、独自の関心を見つけそれを深く掘った人たちの個性が目もされ世界を変えるのです。

すでに大人の世界でも新世界の扉が開かれているのですから、子どもたちにはぜひとも自由研究の意義を伝え、のめり込んでもらえるような指導をしなければなりません。そのために大事だと私が思うのは、その意義を「言っただけでなく、まずは大人たちが実践してみせることです。実践して大人こそその喜びを体感し、のめり込む背中を見せる。これ以上の教育はないでしょう。」

ちょうど先日、作文コンテストの優れた作品を掲載した「花まる作文」の巻頭文でも、同じような視点のことを書きました。「メシが食える大人になるために『自分の心を見つめる作文』を書くことを重視しています」と言っと、「良いですね」と言ったださる方は多いですが、芯の底からそれを信じるならば、まずは大人こそ口だけではなく日々の行動として実践しなければなりません。だから花まる学習会では、せっかくな縁があって入社してくれた若者が本当に実力をつける最高の方法として、毎月一回のコラム書きをルールにしています。何かを教えてもらう研修よりも、主体的で人に発表し見てもらうコラムは、内省と思考をうながし、間違いなく力量をあげ、本人の幸せ感と自信につながっていると感じていま

す。

わが子に確かな「生きる力」をつけたければ、子どもに身につけてほしいと信じる課題を、まずは親こそ行動として実践してみせることが大事。その課題は無数に考えられますが、何でもよいので関心を持った事象について探求や研究を楽しみ、日々の思いを文章にする習慣を喜びとすることで、子どもたちに良い影響を与えたいですね。

花まる学習会 高濱正伸

### 花まるだより 2025年2月号

(令和7年2月15日発行)

編集・発行 株式会社こうゆう  
花まる学習会  
発行人 高濱正伸  
企画・編集 久慈 菜津紀・生井 ちま  
編集 金井 彩・清田 奈甫  
坂田 翔・高橋 奈穂・平山 真康  
デザイン 春日 梨沙・西野 奈布子  
印刷 アークランド株式会社



# 父親だから できること

男性限定

高濱正伸 講演会

5/11日  
10:00~11:30

高濱が、お父さんへ“子育ての極意”を語る「男性限定」の講演会！  
まだだれも見なかった新しい新しい時代でわが子がたくましく生き抜いていくために、お父さんが“いま”できることがあります。子どものかかわり方はもちろん、子育ての要である妻の支え方まで、具体的な事例を交えてお話しします。すべてのお父さんに聴いてほしい講演会です。

開催日時 2025年5月11日(日)10:00~11:30

会場 赤羽会館 講堂  
参加費 1名2,000円(税込)  
定員 512名(先着順)

お申し込みはこちら▶▶



おっと！  
リーダーといっしょに  
ゆくり〜。



川の水つて  
うめたくて  
きもちいい〜。



魚はどこだ〜？



ドキドキ〜！



ツツ  
ツツ



# サマースクール 年長コースを のぞき見

川遊び

草原遊び



あ！  
ナガサシだ！



はじめて  
さわって  
みちゃった！



だ・る・ま・さ・ん・が〜

これなんだ〜？



まくらカバー  
つけられたよ！



なにがいるぞ〜！



サマースクール最高〜！



仲間と協力！  
お布団敷き



花火  
きれい〜。

大きなバッグも  
自分でもてたよ！



花まる野外体験の募集要項は、どの企画についても  
“Comiru お知らせ”でお送りします

「ドキドキ」が「やってみよう〜」に変わる夏。

「ドキドキ」が「できちゃった!」「またやりたい!」  
に変わる2日間。



命である紙風船をつけ、サムライ魂が宿る刀を持つ。……いざ出陣!



私たちが守るんだ!!

**サムライ合戦**



**サマースクール  
小学生・中学生の  
1泊コースを  
のぞき見**



……あ! 魚だ!!

**川遊び**



木の棒を使って、川の底をほってみるぞ〜。



やっとつかめた! ドキドキ。でもうれしい!



本気の水かけ! おりゃ〜!



はじめて見た! いろいろな形があるんだね!

川の石、どこまで積めるかな?



1泊でも参加したい!  
1泊だからスケジュールの調整がしやすい!  
高学年や中学生の参加も大歓迎!



夜の空に輝く炎。何度も見たいと思う景色なんだ。



ほかにはどんなコースがあるのかな?  
魅力満載なコースをご紹介します



1日目の夜、ぎゅっと集まってハイポーズ!

# 受賞者発表！！

大変お待たせいたしました。今年度の「花まる作文コンテスト」花まる大賞と学年優秀賞の受賞者をお知らせします。今回は、約9,200作品から、以下の子どもたちの作品が選ばれました。おめでとうございます！

子どもたちが自分の気持ちを精一杯表現した作文。選ばれた作品は、3月にお渡しする『作文コンテスト優秀作品集』に掲載します。下記以外にも「学年賞」として多数の作文が作品集に掲載されますので、楽しみにお待ちください。



## 2024年度 作文 コンテスト

### 花まる大賞 (7名)

1年 太田 エマ愛祐海 (辻堂・水)

3年 橋本 悠生 (ユーカリが丘・木)

1年 本江 茉帆 (吉祥寺・火)

5年 入江 美月 (浦和つくし幼稚園・水)

2年 柘植 美智子 (北浦和・水)

6年 魚住 真央 (喜多見・水)

3年 中野 葵心 (旗の台・金)

### 学年優秀賞 (50名)

1年

小谷 桃子 (堀江・金)  
齋藤 七鳳 (旗の台・土)  
佐々木 花奈 (七里ふたばこども園・金)  
高野 咲良 (聖母の騎士幼稚園・金)  
瀧藤 慧 (名古屋文化幼稚園・木)  
坪野 輝一 (第一若草幼稚園・金)  
難波 莉乃 (オンライン・水)  
西中 望織 (北浦和・月)  
吉木 美織 (三鷹・土)  
綿貫 嘉人 (祖師ヶ谷大蔵・月)

2年

井本 意人 (代々木・木)  
熊井戸 ひかり (船堀・金)  
児玉 佳苗 (大宮・水)  
鳥谷 美月 (北浦和・金)  
原 日菜子 (吉祥寺・月)  
日高 祐奈 (光が丘・金)  
増淵 結月 (浦和つくし幼稚園・水)  
松本 湧 (小石川(明照幼稚園内)・水)  
三木 ころ (南浦和・火)

3年

岡田 英 (カトリア幼稚園・水)  
小北 鈴 (オンライン・火)  
谷口 華 (四ツ谷・金)  
廣瀬 咲来 (武蔵小杉・土)  
渡邊 大和 (北千住・土)

4年

植村 智花 (王子・火)  
岡田 菜歩 (ひばり幼稚園・金)  
桑原 可帆 (妙心寺壽聖院・木)  
小島 春 (祖師ヶ谷大蔵・木)  
駒形 あかり (駒込・火)  
佐藤 佑起 (月島(リックキッズ内)・土)  
竹田 心春 (川口ふたばこども園・金)  
野吾 幸愛 (北浦和・木)  
八代 麻紗子 (オンライン・木)

5年

青木 真里奈 (溝の口(キッズベースキャンプ内)・土)  
伊藤 紺 (駒込・火)  
小貴 雅飛 (不動前保育園・土)  
片淵 藍 (大森・土)  
杉浦 瑛亮 (自由が丘・火)  
田中 絢心 (所沢ひまわり幼稚園・金)  
山本 新 (しらかほ幼稚園・火)

6年

浅沼 厚輝 (南浦和・水)  
池田 成汰 (静岡・金)  
草野 かほ (大宮・土)  
倉澤 輝 (オンライン・木)  
齋藤 瑞季 (妙心寺壽聖院・木)  
田口 怜 (代々木・土)  
田邊 昊大 (稲谷・金)  
成川 陽莉 (浦和つくし幼稚園・水)  
番匠 直生 (八王子・金)  
山本 珠生 (巣鴨・土)



## 花まる大賞

おねえちゃんのはんこぎ

一年 太田エマ愛祐海

わたしには、小学校六年生のおねえちゃんがあります。わたしが小さかったころはとてもすなおでやさしいおねえちゃんでした。でもさいきんようすがおかしいです。おねえちゃんが「カルピスがみたい!」といったのでママがカルピスを買ったつぎの日には「カルピスはきれい」といったりパパとべんきょうしているときには「そういうテータってあるんですか?」と口ごたえします。わたしについても学校では「いもつとつてめんどうくさいよね」とかいつているようです。

ママとパパはいつも「おねえちゃんってとてもたいへんなんだよ。」といっているけどいまはいもつとつてわたしも、たいへんです。

わたしも六年生になったらあんなつちゃうのかなあ。

友だちにおいて行かれてわかったこと。

三年 橋本悠生

きのうスイミングの進級テストがありました。ぼくは友だちとうけました。けっかは、ぼくが不合格、友だちは合格でした。すごくくやしかったです。これまでずっといっしょにやってきましたからです。ぼくのほうが先にはじめたので、さらにくやしかったです。どのくらいかと言いますと、リレーのゴール直前でぬかされるぐらいです。目の下のなみだをひっしにこらえて、母をおいて一人で走ってちゅうしゃ場にとめてある車のわきに行きました。いつもなら、友だちにバイバイしていたけれど、きのうはしませんでした。友だちがよろこんだ顔がにく

くかんじました。それから数分後、母の顔を見てさっきまでがまんしていたなみだが、きゅっに出てきました。どしゃぶりの雨のようになきました。母といる話を少し気持ちが落ち着きました。これから友だちの顔を見られるでしょうか。またいっしょにわらって遊べるでしょうか。正直じんがありません。次の練習はこれまでの倍がんばります。なぜかという、友だちといっしょにまたわらいたいからです。

移り変わりゆくもの

五年 入江美月

毎週水曜日、花まるが終わると、ママと弟がむかえに来てくれて一緒に帰ります。少しの距離しかないけれど、私はその帰り道の時間が大好きです。

夏休みに入って、花まるが何週間かお休みになりました。そして久しぶりに花まるへ行った九月の帰り道に気づいたことがあります。

夏休み前の帰り道では、にぎやかでお祭りのようなせみの鳴き声が聞こえていたのに、九月に入った帰り道では涼しげで聞いていると落ち着くようなすず虫やコオロギの鳴き声が変わっていました。そのことをママと弟に話すと、弟は「本当だ。気づかなかった。」

と言い、ママは「小学五年生と小学二年生の夏も終わっちゃうんだね。秋に変わるんだね。」と少しさみしそうに言いました。

他にも花まるの帰り道で季節が変わるんだなと気づいたことがあります。それはどこかの家からただよ、とても美味しそうな料理のにおいをかいで、これは何のにおいかなと話をするときです。思い返すと夏にはナスとお肉のいたためものにおいや、やき肉のようなにおい

なと話していたのに、秋になるにつれて、やきいものにおいやさんまのようなにおいかなと話すようになっていきました。毎年冬になると、シチューやおねえちゃんのおいしがします。

そのことに気がつくくと私は、「今年もこの季節が来たんだな。今年は何をしようかな。」とワクワクします。でも、パパとママはちがうようです。

「こやつてむかえに行ったり、一緒に帰ったりすることがほとんど少なくなっていくんだらうな。」

「美月も、パパとママと距離をおきたくなるが出てくるかもしれないね。」

「でも、変わることは悪いことじゃないんだよ。美月の気持ちは今と変わることはあたりまえのことなんだよ。」

と言います。それを私は、「そんなことないのに、私はきつと変わらないけどな。」と思いつつも聞いていました。

でも、最近パパが何か手伝ってくれそうになると、「自分で出来るからいい。」と強めに言ってしまったら、ママに「〇〇は終わったの?」

と聞かれると、自分で順番を決めているから静かにしてほしいと思ったりしてしまいます。友達からもそんな話を聞いていたけれど、私はきつとならないと思っっていました。それなのに、こうなっていることを少し申しわけないような不思議な気持ちになります。

今は、季節が変わるよつに気持ちが変わることもあるかもしれないと思うようになりました。それは、パパとママを悲しませることもあるかもしれません。でも、季節は変わってもまた同じ季節にもどって来ます。それと同じで、私もいろいろな気持ちをくり返して大人になっていくのかなと思えます。でも、これだけは絶対変わらないと言えぬものもあります。それはパパとママが大好きだということです。



こんげつ  
今月のレインボータイム

【ぷらすワード】

どうぶつ いろ きま じょうけん たんご い  
動物や色など決められた条件の単語を入れて、  
ことばや文章を作ってみよう！

みずぐち れい はな がくしゅうかい  
出題：水口 玲 (花まる学習会)  
(しえふ)



かいとう  
解答はこちら！

レベル5

どうぶつ ① れい \_\_\_\_\_ こ

いろ ② \_\_\_\_\_ れいな うちわで \_\_\_\_\_ ぐ。

レベル10 ぶんぼうぐ  
文房具

ぼく \_\_\_\_\_ しかった。

レベル30 いろ  
色

わがやは \_\_\_\_\_ お \_\_\_\_\_ にすんでいる。

レベル50 どうぶつ  
動物

\_\_\_\_\_ ろ \_\_\_\_\_ ぐにともだちがお \_\_\_\_\_ いてきた。



# 無人島



「花まる子ども冒険島」開拓のため、カトパンに続いて広島に引っ越した職人。港がある安芸津町に新たな拠点もでき、ますます力が入ります。そんな2人の日々を、現地からレポートします。

無人島×教育

4年近く続けてきたこのレポートも、そろそろ終わりだ。話の最後に、最初の話をしようと思う。私が広島に来て、最初にした仕事のことだ。

私の最初の仕事は、言葉で島を定義することだった。テントサイトの開拓とか、備品の買いつけだとか、受け入れのしくみを作るだとか、ほかにもいろいろな仕事があったが、何よりも優先したのは「この島が何のためにあるのか」を言葉にすることだった。

実は、日本にはかなりたくさん無人島がある。インターネットで検索すれば、無人島に行けるサービスは割と簡単に見つけることができるのだ。だから、ただ無人島であるということだけで、この先何年も人を惹きつけていくには限界があると思った。数ある無人島のなかで、花まる子ども冒険島は何のための島であるべきなのか。それに答えを出すことで、島が生き残るための指針が見えてくる。

答えはすぐに出た。教育である。「子どもたちが、メシが食える大人になるための体験をする島」。その教育を目的とした島であると、言葉で定義する。そうすることで来島に独自性が生まれ、この先我々が何かに迷ったときには、この基準に立ち返る

ことができるようになる。具体的にどんな言葉にしたかは、ここでは触れない。ぜひ花まる子ども冒険島のHPで確かめていただきたい。すべての始まりになった言葉だ。

言葉の話でいくと、「冒険」という言葉についても私には特別な想いがあるので、伝えておきたい。冒険とは、「険を冒すこと」。つまり、「険」が存在する領域に踏み込んでいくことを意味する。では、「険」とは何か。まず思いつくのは「危険」ではないかと思う。しかし、私はこれを「リスク」であると考えている。危険とリスクの違いは、作家の村上龍がわかりやすく伝えているので、引用ではなく記憶からなるが、以下に紹介したい。

例えば、目の前に地雷原があるとして、そこにただ入ろうとすると、地雷原は「危険」になる。しかし、その先に何か宝物があつて、それを取りに行こうとするとき、地雷原は「リスク」になる。つまり、リスクとは、冒すべき価値のある危険を指す。リスクという言葉にはそうした日本語に翻訳できないニュアンスがふくまれているので、言い換えることができない。だから、リスク、とそのまま使う必要がある。

花まる子ども冒険島の「険」は、まぎれもなく「リスク」だ。ただの危険ではなく、冒すべき価値がある。人は時々、人生をそっくり変えてしまうような素晴らしい

何かと出会うことがあるが、そうした出会いには必ずリスクのあるエリアで起る。そのエリアは「外」と呼ばれる。外とは、ドアの外、すなわちアウト・ドアだ。安心や安全が保障されたドアの内側では、「何か」に出合うことはないだろう。身体的にも、精神的にも、我々は常にドアの外に赴く必要がある。花まる子ども冒険島が、100年先まで真にアウト・ドアであることを、心から願っている。

(おわり)

花まる学習会 橋本一馬



教育のための無人島、花まる子ども冒険島。ここでは不便が学習資源となる。

無人島企画や最近の様子を配信中心！ぜひ登録してね！



花まる子ども冒険島公式LINE

カトパン 加藤 崇彰

花まる学習会 無人島プロジェクト 責任者。学生時代から、花まるの野外体験に深くかかわってきた。現在は広島県へ移り住み、オンライン教室の教室長を務めながら、開拓団の受け入れや無人島開拓の準備を進めている。



職人 橋本 一馬

花まる学習会 神奈川 東北ブロック 教室長。前職が家具職人だった経歴から「職人」のミドルネームを持つ。家具製作技能士、狩猟免許、プッシュクラフトアドバイザー、WFAなど、ちょっと変わった資格や経歴を活かし、「メシが食える大人」に独自の視点でアプローチを行うことが好き。広島で2年間無人島開拓に携わったのち、現在は神奈川でキャンプ教室を企画中。



これまでの開拓記はこちら！



ゆつきちゃん(神奈川県)

感想を伝える前から、「これが冬で、こっちが夏！」と季節の色をイメージしてつくっていったことを教えてくれました。冬の作品は、温かそうなクリスマスカラー仕様。夏の作品は涼しそうなさわやかな仕様になっていました。

夏の作品はリュックにしまい、冬の作品は手に持っていきたいとのことでした。途中で、ICカード用ポシェットに入れてしまい、取り出すと毛糸がすべて枝から抜けてしまいました！少し残念そうにするも、すぐに気を取り直して作り直していました。その後は取れないように気をつけて出し入れしていました。(よく学んだ！)

ランチ後、すみだ水族館へ。Rinせんせいに教えてもらったクラゲとチンアナゴを見ること、まな先生に帰りに提案していただいた「水族館で作品と一緒に写真を撮る」ことを楽しみに向かいました。クラゲの美しさに魅了され、しばらく見て写真を撮ったあと、チンアナゴ・ニシキアナゴを発見！毛糸の作品を持って写真を撮ったあとは、なんと作品を使ってアナゴたちと遊んでいました！

アナゴたちがどこまで見えているのか不明ですが、色とりどりの毛糸が見えていて反応してくれていると感じた娘は、それを使ってアナゴたちを穴から出そうと上げたり下げたりし、出ると大喜びしていました！作品×アナゴたち×遊びのクラブ、見ていて幸せな気持ちになりました。



「あなたはどうしたい？」  
自分のころと向き合ってきた  
子どもたちの作品に、  
Rin先生が鑑賞のこぼをそえます。

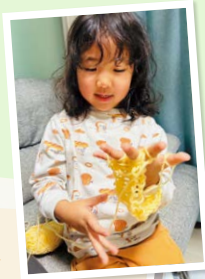


Rinせんせいより

毛糸が全部抜けるハプニングがあっても、「うまくいかなくてもくじけない」精神が身についていたんだね！長年通っている子は、作品にテーマ性を持たせて、2部作、3部作にして制作するなどの自分の作品の世界観ができあがっていきます。そして言葉でも人に説明できるようになっていくものです。それこそが、主体的なプレゼンテーション。人に説明する力も、自分の作品だからこそ、他者からの評価によらずますます伸びていきます。チンアナゴと作品の共演。この遊びこそまさにアートですね。

事前にゆびあみの「作ってみたよ動画」を見ながら指を動かして、イメージトレーニングをしていました。帰宅後にゆびあみを自分で始めました。最初の何回かは母がサポートしましたが、すぐにやり方を覚えて1人で完成させました。作品をつくっている最中に「これこれ！ たのしい〜!!」と動画と同じことが再現できたことに大満足しているなど思いました。

完成するとネックレスだよ！と見せてくれました。カチューシャでもかわいいね！と声かけをしてみると「ピアスもできそうだね！もっとたくさんつくりたい！」と新しい技法を学びアイデアがあふれている様子でした。見たものを頭で理解すること、自分はどうしたいかを考えること、手先が実際動くようになること。すべてが揃うまでが段々と早くなってきたように感じます。



ほのかちゃん(千葉県)

Rinせんせいより

「作ってみたよ動画」を見てイメージトレーニングをして授業に臨んでくれる意気込みが嬉しいです！新しいことを学ぶこと、身につけられることが「楽しい〜！」と知っている。作品をつくりたい、自分がやりたいと思ったことを追求するエネルギーこそ、主体的な学びだということが、ほのかちゃん笑顔から読み取れますよね。満足そうな表情が、試行錯誤後の達成感からだわかります。お母さまのサポート、声かけの仕方も素敵です。

今月のARTレシビ

毛糸ART② ピースクロス-PEACE CROSS  
【Rinせんせいが作ってみたよ】



『毛糸アート  
おかわり！ピースクロス』

秋から始まった私の毛糸を使った編み物作品群は、最終的にガーランドとなつて、12月のAtelier for KIDsのクラスで装飾してみました。棒針あみ、かぎ針あみ、アフガンあみ、機織りと、引き続きまったく編み図を見ないで毛糸と戯れるように制作しています。

さて、前は指と毛糸だけでできる「ゆびあみ」のご紹介でしたが、今回は木の枝や割り箸のような棒と毛糸があれば大人も子どももハマる「ピースクロス」です。色をどう組み込んでいくかで表情が変わって楽しいこのレシビは、海外ではゴッズアイという名で知られ、古くからあるクラフトワークのひとつ。大英博物館でも見ることができました。(『ころと頭を同時に伸ばすAI時代の子育て』(実務教育出版) P.174でも作り方を紹介しています) どうぞお試しあれ！

<https://youtu.be/fm9ndTmVtYl>

みんなの  
うちART作品を  
待っています！

- ・レシビ部門
- ・じゆう部門

Rinせんせいに  
おくってみよう！



Rinせんせいが  
つくってみたよ



つくり方を  
動画で  
見てみよう

じゅんびするもの

- ・木の枝や割り箸
- ・毛糸
- ・ハサミ

こころと頭を  
同時に伸ばす  
幼児期の子育て

## Rinコラム

65

### 自分らしさは どうやったら生まれるのか

「自分らしさ」を表現してほしい、と願わな  
い親はいません。それゆえに「人と違う、唯一  
のオリジナリティ」という幻想を、作品に期待  
してしまふ。「うあってほしい」という願いは、  
ときに子どもたちをがんじがらめにします。  
創作を始める前に必ず確認する「きはん」の  
時間。私が「まねっこするのも大歓迎」と伝え  
ると、ホツとした顔をする子どもたちが少な  
くありません。

ある一年生の男の子。運動や音楽が大好きで  
活発な性格ながら、慎重で繊細な一面も持ち合  
わせています。負けず嫌いで失敗することに抵  
抗がある彼は、図工の時間、真っ白な画用紙を  
前にして泣いていました。

家での工作や遊びのときも、「どうしたら  
いいの?」とお母さんにまず聞きます。「自由、  
すきなように描いていいんだよ」と伝えても「何  
したらいいかわからないもん」「上手にできな  
いもん」と悩んで、手が止まってしまふのです。

手が止まる原因はさまざまです。とにかく  
“失敗”したくない気持ち先立っている場  
合、そもそも頭のなかに具体的なイメージが浮

かんでいない場合、またはイメージがあつても  
それをどう表現すればいいのかわからない場  
合など。

どんなものをつくりたいのか、本やネット  
で一緒にお手本を探してみたり、「ママはこん  
なふうによつてみようかな」と描いてみたり  
……。そんなことを繰り返しやっていると、  
いったんやり方がわかると、それをトレスし  
ながら少しずつ自分のオリジナリティを出した  
作品をつくれるようになる、ということに気づ  
いたそうです。

インプットすること、真似ること、これが「自  
由な創作」をするためには必要だということ。  
頭ではわかっていたことだけれど……とお母さ  
んは気づかれました。

「学ぶ」は「まねぶ」が語源ですし、「型」が  
あるから「型破り」ができます。「すべての創  
造は模倣からはじまる」という言葉のように、  
私たちは、ありとあらゆる情報を吸収して、日々  
学んでいく生き物なのです。

「先生が提案するものや、仲間が思いついた  
おもしろそうなアイデアを、それやってみた  
い!」と思つたら、その「やってみて」が持  
ちに正直でいて、いつも自分の心が何に動いた  
のかを、大事にしてください」

「絶対に同じものにはできないし、それぞれが  
唯一で世界一の作品になります。自分らしさは  
どうやったら消えないし、それは何かによつ  
て奪われるものではないんだよ。あなたらしさ  
を信頼して」

教室で子どもたちに「真似してもよい」  
と切り切るこの意味。

それは、あなた自身のフィルターを通して  
世界観というものは、絶対に失われることの  
ないものなのだ、と知ってほしいからです。

他人の評価に沿って正解を目指して生きて  
いるうちに、見失ってしまうあなたらしさ。  
大人だってそうです。目の前のやるべきこと  
を、ただ真摯に取り組むだけで、あなたらし  
さは勝手に積み出せます。

自分の物語をつくるために生まれてきた私  
たちは、すでに生きているだけで、その人ら  
しさを奪われることはないのです。

子どもたちがたくさん経験をして、も  
とも持っていた種から花を、豊かに実らせる  
ことができますように。そんなイメージで、  
子どもたちの前に立ち続けるのです。

Rin (井岡由実)



## Atelier for KIDS



全国から  
参加可能!

### おうちアトリエコース

素材セットとおたよりがご自宅  
に届き、「Rinせんせいがつくって  
みたよ動画」を見て、お好きなタ  
イミングで制作をします。

Zoom(授業日の午後)または  
LINE公式アカウントのやりとり  
にて、鑑賞会も行います。

詳しくはHPをご覧ください。

参加費: 1名2,500円(送料・税込)  
申込締切: 3/5(水) 19:00

### Rin (井岡 由実)

花まる学習会取締役、「ARTのとびら」主宰。児  
童精神科医の稲垣孝氏とともに、心を病んだ青年  
たちへの専門的な対応に専心。花まる学習会年中  
・年長向け教材開発に携わり、冊子『1年生になる  
前に』では、幼児期に伸ばしたい能力や感性の教  
育について論じる。著書に『こころと頭を同時に  
伸ばす AI時代の子育て』(実務教育出版)ほか。

RinせんせいのSNSなど  
すべてのリンクは  
こちらから▶



**3/23(日)** 10:30~12:00 世界にひとつの  
宝物ボックス  
【対面クラス】  
対象 年中~中学生とご家族  
定員 30名(予定)(お茶の水花まるラウンジにて)  
参加費 1名3,500円(税込)  
申込締切 3/5(水) 19:00

<https://www.hanamargroup.jp/art-edu/news.php>

勝谷里美

花まる学習会の教室長を担当しながら、花まる学習会や公立小学校向けの教材開発や、書籍出版に携わる。現在は、小4・小2・3歳児の母として子育てに奮闘中。著書に『東大脳ドリルこくご伝える力編』『東大脳ドリルかんじ初級』『東大脳ドリルさんすう初級』（学研プラス）ほか



花まる教室長がお届けする  
子育て奮闘記

## 花まるリビング

43

### アンオフィシャルな場所だからこそ！

わが家では、約3年前から年始めに「カード&ボードゲーム大会」を開催しています。家にあるカードで取り組むひとときです。

初めてこの大会をおこなったとき、長男はまだ年長。負けるに悔しくなり、「もうやらない！」といじけたり、泣いたり、時にはちゃぶ台をひっくり返すこともありました。しかし、今年は様子が違いました。負けて悔しがることはあっても、ゲームを中断させることはなくなりました。同じことを続けていくなかで、子どもの成長を感じる良い機会にもなっています。

今年の大会では、新たな変化として「子どもチームの結託」が見られました。

私（母）と長女（小4）、長男（小2）の3人で「アルゴ」というゲームをしたときのことです。

アルゴとは、対戦相手の伏せられたカードの数字を推理して当てるゲームで、論理的思考力を鍛えることができます。（花まるグループでは対面とオンラインで「花まるアルゴ教室」も開講中です。）

最初は普通にゲームを進めていたのですが、途中で子どもたちが「自分たちの持っているカードを照らし合わせれば、母のカードがわかるのでは？」と気づきました。そして、直接カードを見せ合うわけではなく、ルールギリギリの範囲で手札の情報をすり合わせ、私を攻めてくる展開に！「それじゃあ勝てないよ」と悔しがりつつも、そんな子どもたちの姿に成長を感じ、母としては少し感慨深くなりました。

家族でカードゲームやボードゲームを楽しむことは、思考力やコミュニケーション能力を育む大切な時間です。花まるグループでも、こうした活動を推奨しています。ただし、「〇〇を伸ばそう」という大人の意図が見えすぎると、子どもたちのやる気は一気に失われてしまうので、大人も子どもも本気で遊ぶことが一番！

また、今年観察していて気づいたのは、家族という「アンオフィシャル」な場所ではできない経験

もまた貴重な、という点です。

たとえば、今回の「アルゴ」で見られた「子どもチームの結託」は、公式の場では通用しない手法です。しかし、家族という「アンオフィシャルな場」だからこそ許された、完全に不正ではないが、ちょっとズル、ちょっとズルをしながら、相手をふふんと出し抜いていく子どもたちの目キラキラ加減といったら。頭がフル回転している状態なのが伝わってきます。

このような遊び心||白黒でははかれないちよつとしたグレーな部分を攻めるといったゆとり幅のような部分も、安心・安全な家族の場だからこそ積める経験といえるでしょう。

代表の高濱が語る「子どもは外遊びのなかで遊びを進化させていく」という事例があります。

遊びを基盤ごと変えて、臨機応変に工夫して楽しむことも子どもは得意です。

いつもは4人で遊んでいるのに今日は5人になったらさつとルールを変えて楽しく遊べます。遊んでいる間にも子どもは楽しいことしかしませんから、つまらなくなってきたらすぐにルールを変えてしまいます。そのうち元のルールはどこかへいってしまっって、自分たちだけのゲームをしていることもあります。ゲームそのものを創ってしまえる発想力や柔軟性、判断力。これもイメージ力を支える能力です。

——高濱正伸 著『小3までに育てたい算数脳』(エッセンシャル出版社)イメーシ力は外遊びでこそ伸びる の項より

この「遊びを基盤ごと変える」というのが、外遊びでも子ども同士のなかだけではなく、家族でカードゲームやボードゲームをしているときにも、よく起こります。

家族だと、4人で遊ぶボードゲームなのに3人しかいない、一人は5歳年下でルールもわかっていないなんて、イレギュラーだらけ。そんな状況のなかで「どうすればみんなが楽しめるか」を考える必要が出てくる。結局、アンオフィシャルなルールだらけのなかで

ゲームを進めることになりませんが、それもまた経験！  
発想力、柔軟性をフル活用して楽しんでいました。

あまりにもルールを逸脱するようだったら、場を引き締めて。でも、躍動している子どもの状態は見逃さずに、尊重して。そんなふうには、アンオフィシャルな場所||家族でのカードゲーム、ボードゲームの時間を楽しんでいたらいいな、と思った2025年の始まりでした。

花まる学習会 勝谷里美



親子であそべる本！



『1日1ページで頭がよくなる！  
まいにち知育クイズ366』  
高濱正伸 監修  
(日本図書センター)

「1日たった3分のクイズあそび」  
どうぶつ・しょくぶつ・こんちゅう・からだ・たべもの・よのなかなど、好きが見つかる&興味が広がる全18ジャンル。楽しみながらクイズを解くことで、好奇心・語彙力・集中力・数的感覚・探求心など、「まなびの土台」となるさまざまな力を育みます。高濱による「おとなのかかり方のポイント」も、親子でゲームやクイズをする際にとっても参考になると思います。



『3ヒントクイズえほん  
にんちゃくん』  
IC4DESIGN 作絵  
いまむらありさ  
すぎよこ 文  
(ポプラ社)

ストーリーを進めると同時に、3つのヒントから正解の絵をさがす「3ヒントクイズ」を解いていく構成です。子ども一人でも楽しめますが、親子で会話を楽しみながらページをめくるのがおすすめです！ 問題の本質をつかみ、自作の「3ヒントクイズ」を作るところまでいけたらすごい！



『シモンのおとしもの』  
バーバラ・マクリントック 作  
福本友美子 訳  
(あすなろ書房)

「絵探し絵本」なのですが、同時にパリの街並みを味わえるので、旅行好きな大人にもぜひ！ 絵探し絵本のシリーズはたくさんあるので、親子でも自分の好きなテイストのものを選んで、おすすしめ合うと楽しいですね！

Yushi  
榎原 悠司  
Sakakibara

保育料を知らない……!!

先日、旧友と会った際に職場の愚痴を聞きました。

「すぐ目の前で先輩が動いているのにスマホを触ったりのんびりお昼を食べたりする新人がいる。『手伝いましょうか?』と言わない。先輩が仕事をしているのを見て何も思わないのか、そもそも気づいていないのか……」  
ん? なんだ、この既視感。まるで自分が責められているような。思いめぐらせていると思いましたが……

「あ、家での自分と同じだからか!」  
この「旧友」はわが家の妻で、新人は私。妻が皿を洗い、洗濯物をたたむ、その傍らで私がスマホを見ていたりダラダラしていたり。これとまったく同じだと妙にすっきりしました。彼に「いや、きつと悪気はないよ。」

単に気づいていないか、もしくはあとでやるうと思っていたんじゃないかな」と言いました。

きつとその新人も、そして私も悪気があつてそうしているわけではありません。手伝う気がないわけでもありません。本当に。ただ、いまは休憩タイム、ゆっくりしたい。あとでやればいいのか、と思つてうちに妻がどんどん自分で進めてしまうのです。「あとで俺がやっておくから」と言つても、「いい、それなら私がやるから」と。当然「あなたは全然やらない」とイライラさせてしまうことになりました。後述しますが、学んだことによりいまはそういうことがなくなりましたが、「自分でやるって言うてなせイライラしているんだ?」と以前はまったくわかつていませんでした。何をわかつていなかったかという点、たとえば「(夕食後の)食器を洗っておいて」「わかった」とよくあるようなやり取り。この互いの一言にはそれぞれの異なる思いが省略されています。

「食器を『いま』洗っておいて」「わかった」あとでやるね」「いまやってほしいからお願ひしている妻とあとでやればいいと思う私。なぜいまかといえは、まだほかにやることがあると先が見えている妻。それに対して今日中であればいい、洗っておしまい、とそこしか見えていない私。妻の頭のなかでは、私が夕食

後の片付けをしている間に洗濯物をたたみ、明日の保育園の準備もして、そのあと翌日の夕食準備に取り掛かる、という算段ができています。新人の私はそのような算段があるととは到底思いつかず「あとで」なんて呑気に構えています。その私の目の前で妻が黙々と家事を進めていきます。そして最後になって「あ……!」と思つのです。

「いまから明日の夕食準備をするのか!?」  
「じゃあ先にやるべきだった……」  
「食器を洗っておいて」の意味をいまは想像できるよになりました。

「明日は出勤で帰りが遅くなるから夕食を作る時間がない。今日のうちに明日の夕食を作っておきたいから、私が洗濯物をたたんでいる間に夕食後の食器を洗ってキッチンを片付けておいて」  
こうして一つ見えるものが増えたのと時を同じくして、ふと妻にこのようなことを言われしました。

「保育料、いくらか知ってる?」  
わが子の保育料……? 知らない! 家庭のことをなんにも知らないし見えていない、とこのとき強く自覚しました。わが子のことなのに、妻におんぶにだっこ状態……。

だから、自分が見えていること・気づいたことはいまやろう、と改めました。子どもが遊び散らかしたものを片付ける、洗濯機が「ピーッ」と鳴ったら洗濯物を取り出したたむ、など。私の想像が及ばない部分

は妻に補ってもらえるように。さらには、見えていないゆえにいつそのこととどんな指示を出してくれ、言われた通りに動かさないと、とさえ思いました。最近、その指示によって初めて知ったことがあります。予防接種の問診票はこんなに何枚も何種類もあるのか……! と。

会社では中堅どころ、家では新入社員。そんな新人が子育て3年目を迎えたつい先日、このコラムを書くにあたり「前はこうだったよね」と妻に話してみました。

すると、「あれ、そうだったけ? あ、前はそうだったね」と言われるぐらいには成長しました。「見ているものが全然違ってたね」とも言われ、グサツともきました。きつと旧友の職場の新人も、3年後には会社の力になれるのではないかと、思うのです。しかしそれと同時に、そもそも妻も子育て歴は私と同じなわけで、それにもかかわらず1年目からバリバリやれているのかと驚愕もします。出産前もあとも、本やネット等で調べて備えていた姿をいまさらながら思い出し、敬意の念を抱きました。そして、できることをこれからも増やしていこう、いまに満足してはダメだぞ、と自分に言い聞かせました。



～2025年はこんな「記念イヤー」～



『ズッコケ脅威の大震災』

那須正幹 作  
前川かずお 絵  
高橋 信也 絵  
(ポプラ社)

「こんなハードなズッコケ読んだことない！」ミドリ市でM7.2の巨大地震が発生。ハチベエたちおなじみの3人組が何を思い、どう行動するのかを、震災後の町の様子や人々の心理状態も絡めて克明に描いた一流のシミュレーション小説。朝の連続テレビ小説「おむすび」でも描かれた阪神淡路大震災(今年発生30年)の直後、作者と現地の子どもたちとの交流から生まれた物語です。「もしも自分の住む町で災害が発生したら？」とイメージするための一助に。



『大阪万博1970』

藤川智子 著  
白井達郎 監修  
(ほるぷ出版)

『人類の進歩と調和』をテーマとし、かつてない規模で開催されて世界中から注目された1970年の大阪万博。岡本太郎氏による「太陽の塔」、多種多様なパビリオン(展示館)などはもちろん、話題を呼んだ「水中レストラン」や迷子センターなどバックヤードも詳細に描いた読み応えたっぷりの絵本。4月から10月まで開催される「大阪・関西万博」の前の一読するのがおすすめ。



『フェイクニュースがあふれる世界に生きる君たちへ：増補新版 世界を信じるためのメソッド』

森達也 著  
(ミツイパブリッシング)

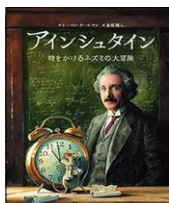
「物事は、どこから見るかで全然違う。なぜなら世の中の現象はすべて、多面的だからだ」——。作家、映画監督として活躍する著者による、現代の情報化社会を多角的に解説したノンフィクション。かつて「よしみちパン!せ」シリーズで出版されていた内容に加え、SNSの影響など今日的な話題も豊富に盛り込まれています。オウム真理教による地下鉄サリン事件発生から30年、「YouTube」設立20周年の今年、改めてメディアリテラシーを考える一助となる一冊。



『ある晴れた夏の朝』

こどもまり 著  
小手鞠るい 著  
(偕成社)

日系アメリカ人のメイは夏休みに友人に誘われ、広島・長崎に落とされた原爆の是非をディベートすることに。真珠湾攻撃、日中戦争、ナチズム、人種差別……。さまざまなバックグラウンドを持つ8人のアメリカ人高校生たちが、唯一絶対の答えがない問いを考え抜く姿の描写が見事で、特に広島平和記念公園にある慰霊碑をめぐるクライマックスの対話シーンは非常に印象的。太平洋戦争終結80年の今年、現代の視点で戦争、原爆を考えるために必読の一冊です。



『アインシュタイン 時をかけるネズミの大冒険』

トーベン・クールマン 作  
金原 瑞人 訳  
(ブロンズ新社)

勇気と知恵を持ったネズミの冒険を描いたシリーズの4作目(1作目:『リンドバーク』、2作目:『アームストロング』、3作目:『エジソン』)。1985年、スイスの首都ベルン。前の日に終わってしまった世界最大の「チーズフェア」にどうしても参加したいネズミは、なんとか時間をさかのぼる方法を考えはじめますが——。ネズミとともに時空をこえた旅に繰り出していくかのような、圧倒的な臨場感が味わえる一冊。今年没後70年のアインシュタインももちろん登場。



3月 (第10回) 「本×いま」～最新おすすめ本、一挙紹介!～

「いま」という時代に生まれている本、物語とは何なのか? 世界・日本における子どもの本の流れや最新の児童書を紹介しながら、時の流れとともに変わっていくものと決して変わらないもの、子どもの本の未来、物語に触れる喜びについて語ります。1年にわたる講座のラストを飾る、「うれしくて楽しい」時間をご期待ください!

3/13 (木)・3/15 (土) 10:30～12:00  
参加費 一家族 500円 (税込)  
申込締切 開催前日の19:00

<https://www.schoolfc.jp/extension/j-hiranuma/2024/>



全国から参加可能!



中山 翔太  
(ぶらぼー)

# 花まる こうぐ

ゆっくり時間をかけて……

「ご無沙汰しています。わかりますか？」  
たまたま用事があったって行った教室の授業後、勤務していた講師に挨拶をすると、大柄な青年講師に声をかけられました。マスクを外しながら、クイズを出すかのようにニヤニヤしている彼の顔を見て、自分の記憶を手繰り寄せました……。

昔々あるところに、とにもかくにも電車が大好きな男の子がいました。授業が始まったも窓の外を眺めてばかり。初めて来た体験授業でも入会後も、私のメモには余所見していること、窓の外を見ていてこちらに背中とお尻を向けている姿のことばかりでした。数回の授業を経たある日、「連休に何をしたらか」という話で子どもたちと盛り上がり上がっているときに、Aくんの並外れた才能に気づきました。「はじめに〇〇線に乗ってね！ △△駅で

乗り換えたら、今度は□□線で……」  
急に饅舌になったAくんはその日の課題はさておき、プリントの裏に右上から左下にかけて飛び出してくるかのように遠近法を用いた電車の絵を描いていました。細かな部分まで丁寧に描かれたその電車の仕上がりも素晴らしいのですが、電車を立体的に見せる空間認識力には目を張るものがありました。好きが高じてこんなにも立体をとらえる力が自然と伸びるものかと驚きました。

その後はAくんが授業に興味をもてるようにと、問題を電車に置き換えたこともありました。授業に集中できるよう、電車の見えない席に移動させたこともありました。すると、目を瞑りながら通過する電車の音で上り線か下り線かを当てたり、何両編成か予想したり……。ああ、きっとこの子は一生好きなものと生きていける幸せな子だ、と感じたことを覚えています。

時が経ち、高学年を迎えようとする時期にAくんから「中学受験をしたい」と相談されました。理由は明白です。「毎日、電車に乗って通学できるなんて夢のような生活を送ってみたい」一点の曇りもない真っ直ぐな目をして、声高らかに宣言しました。その後、スクールFCで楽しむも頑張っていることや、中学受験に合

格して私立の中学校に進学したことは聞いていましたが、その後はばったり連絡が途絶えていました。

それから約10年が経ち、目の前には私と変わらないくらいに身長が伸びた青年が立っていました。マスクを外し、昔と変わらない笑顔を見て、彼がAくんだと気づきました。懐かしさと嬉しさで、授業後の片づけをしつつもつい話が盛り上がり、何度も手が止まってしまいました。ひと通り過去の話を楽しみ、ようやく現在まで時間が追いつきました。就職活動中だというAくんに希望の職種を聞いてみると、

「あ、もちろん鉄道関係です！」  
と爽やかな返事が食い気味に返ってきました。

「いまも鉄道は好きだけど、大学生からモータースポーツにのめり込んで、自動車メーカーも候補ですけどね」  
好きなことを語るときAくんの目が、

小学1年生のときと変わっていないことが嬉しく、その後も長時間に渡って話に花が咲きました。

自分の好きなことを大切に、そんな自分を好きでい続けることは簡単なようで難しい。現代社会において、自分は何が好きか、自分は何に幸せを感じるか、自分はどうしたいか。それをわかって仕事

をしている大人はそれほど多くないように思います。だからこそ、いまを生きる子どもたちにはさまざまな経験をし、そのなかから興味の種をたくさん見つけてほしい。いまはまだ好きなことが見つからない子も、ゆっくり時間をかけて好きなことを醸成して自分の軸を見つけてほしいと願っています。

花まる学習会 中山翔太

数理教室 花まる学習会

## ALGO CLUB

あそびの中で算数脳を鍛える



<https://www.hanamargroup.jp/algo/>

体験  
受付中

ぶらぼーが  
授業をするのは

**対面教室**

東京都  
高橋の森  
代々木  
早稲田

埼玉県  
南浦和

神奈川県  
永平寺  
辻堂

千葉県  
本八幡  
流山おおたかの森

茨城県  
万博記念公園

**オンライン**

世界中  
アメリカ  
中国  
マレーシア…

日本  
北海道  
大阪  
愛知  
福岡  
兵庫  
東京  
神奈川  
千葉  
埼玉  
茨城…

年長・小学1～6年生 開講学年は教室により異なります



花まるの  
教室長を  
紹介します!

# Hanamaru Family 花まるファミリー

🌐…オンライン

🍷…アルゴクラブ

🏠…スクールFC

🗣️…英語花まる

🌿…むぎぐみ

🌐…ソトシルクラス

まようしつちよう じゆんぱん しょうかい たの  
みんなの教室長も順番に紹介するよ。お楽しみに!



い で い ま り  
出井 真理

東京東 栃木県



い と う けん こ  
伊藤 健吾

千葉 千葉県



い と う ま い  
伊藤 真衣

中京 愛知県



お が た き ょう か  
尾形 京香

千葉 香川県



おくにし ゆう 希  
奥西 裕希

東京西 埼玉県



か み た け み き  
上武 美貴

千葉 神奈川県



かわむら ゆう し ゅん  
川村 優駿

中京 北海道



こ じ ま た け し  
小島 健

東京東 アルゴ 神奈川県



とよだ せ な  
豊田 星那

埼玉 埼玉県



はたの う た な  
畑野 詩奈

関西 熊本県



やたがわ み ふ 冬  
谷田川 美冬

埼玉 東京都



やまぐち たい が  
山口 大河

埼玉 埼玉県



わたなべ  
渡邊 みなみ

茨城 千葉県



たかばし ま さ の ぶ  
高濱 正伸

〇〇〇 熊本県

…… リーダーネーム

…… 名前

…… 所属

…… 出身地

サマースクールや雪国スクールで会おうね!

2月の誕生花は **フリージア**



私の母は、岡山県出身の両親のもと、神戸市で生まれ横浜市で育ちました。「謙虚さが大事」と祖父に教えられ、そのことをいまでも大事にしています。親戚がいまもみんな仲良しなのも特長です。高校を出て保育の勉強をして40年以上、いまも保育士をずっと続けています。「始めたらずめないタイプ」で、こだわりと責任をもって仕事に向かっています。 | 小島健・タッキー